

「授業」で 社会を生きる力を育む

高校生活の大半の時間を過ごす「授業」。
皆さんが生徒だった頃を少し思い出してみてください。
印象に残っているのはどんな授業でしょうか？
卒業して何年か経ち、授業で学んだことが生きて働くうえ
でどのように生きていますか？

そして、教師となった今。
先生方にとって「授業」とはどういうものでしょうか？
生徒のために、日々の授業実践を通じて
大切にされているものは何でしょうか？

現在、中央教育審議会において、次期学習指導要領の
審議が行われているのは既知のとおりだと思います。
先に公表されたこれまでの審議のまとめには、
各学校段階、各教科等における改訂の具体的な方向性
が示され、今年（度）中には答申となる見込みです。
その内容に通底しているものは、学校から社会への
円滑なトランジションであり、必要となる資質・能力を
どう育んでいくかが大切なメッセージです。
教室（学ぶ）と社会（働く）がつながり、
教室から生徒の未来を描くことができるでしょうか。

授業改善の手法論が至るところで議論されています。
教育改革の大きなうねりのなかで、これからの授業の
在り方が問われている証。
「授業」という「時間」と「空間」は学校における
財産であり、今こそ見つめ直す時ではないでしょうか。
先生方の「授業観」こそが原点だと思います。

山下真司（本誌 編集長）